

経済的観点から見る米国の人気曲における 歌詞の感情表現の特徴

抄 録

本研究では米国で人気がある曲の歌詞に含まれる感情が、米国の政治・経済とどのように関わってきたかを明らかにする。まず曲の基本的な情報としてジャンル、アーティストの性別や人種などの情報を収集し、その後歌詞に含まれる感情について調査した。その結果、アーティストの人種などが当時の米国の政策や、情報技術の進歩に影響することがわかった。また、歌詞には肯定的な感情が含まれるものが1970年代から現代にかけて人気だが、近年は否定的な感情や肯定と否定の中立の感情が含まれる歌詞も人気になりつつあることもわかった。

キーワード：Billboard Hot 100, 歌詞, アメリカ, ヒット曲

1. はじめに

1.1 研究動機

私は小学生のころから洋楽が好きで、特に2010年代以降の洋楽を好んでよく聞いている。普段は歌詞に注目して曲を聴いているのだが、英語の授業で1960～70年代にヒットした洋楽を聞いた時に、自分が普段聞いている現代の洋楽のほうが歌詞の構成が複雑な事に気づいた。そして、多くの曲の歌詞には何かに対する感情が含まれているため歌詞に含まれる感情に興味を持った。Napier (2018) は、音楽チャートのBillboard Hot 100にランクインした60年分の曲を分析し、時代の流れによってポップソングの歌詞に含まれる感情は肯定的な歌詞は減少傾向、否定的な歌詞は増加傾向にあると述べている。しかし、Billboard Hot 100は100位まで発表されるため曲数が非常に多く、それらの全てが多くの人々に聞かれた曲とは限らない。よって、一定の期間多くの人々に聞かれた曲について改めて調査する必要があると考えた。また、アーティストは自分の立場を利用して世間に訴えたいメッセージを歌詞に含めることがある。それらと当時の政治や経済の状況との関わりについても調査の必要性を感じたため、この研究テーマを設定した。

1.2 研究目的

米国の人々が歌詞に求めているものを、歌詞に含まれる感情の観点から比較し、米国の政治や経済と人気曲の歌詞がどのくらい関わってきたかを明らかにする。

2. 研究方法

2.1 調査対象曲

1979, 1989, 1999, 2009, 2019年のBillboard Hot 100 Year End Chart 各上位20曲とする。このチャートは音楽メディアのBillboardがその年ヒットした上位100曲を年末に

発表しているものである。Billboardは米国において100年以上前から芸能メディアとしての地位を確立しており、信憑性の高い音楽チャートである。

2.2 研究方法

まず簡易分析として、曲のジャンルや、アーティストの性別や人種、メンバーが二人以上のアーティストはグループ形態の情報を収集し、その後に感情分析を行う。テキストマイニングソフトのAmazon Comprehendを使用し肯定的、否定的、中立的、(否定と肯定の)混在の4種類の感情が歌詞に含まれる割合を分析する。テキストマイニングの正確性を高めるため、感嘆符や疑問符などの記号やコーラスなどの繰り返されている部分はカットし、アポストロフィーなどで省略されている単語は元の形に戻した。(例：wanna→want to, goin'→going)。歌詞はAZ LyricsまたはGeniusから引用した。これらの結果を米国で起こった政治・経済的な出来事と照らし合わせることで考察する。

3. 結果

3.1.1 簡易分析ー曲のジャンル

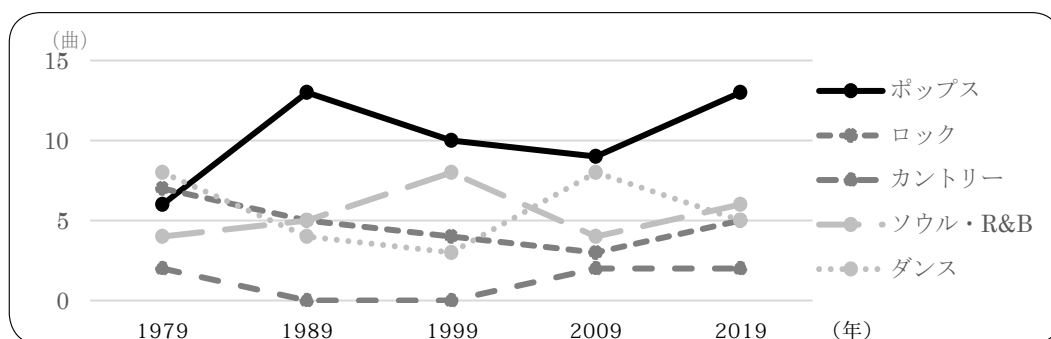


図1 曲のジャンル

備考：特に近年、ジャンルに縛られない曲を作るアーティストが増加しているためジャンルの重複が多い。「ダンス」には1979, 1989年にはディスコ, エレクトロニック, 2009, 2019年にはヒップホップ, ラップが多く含まれている。

3.1.2 簡易分析ーアーティストの性別

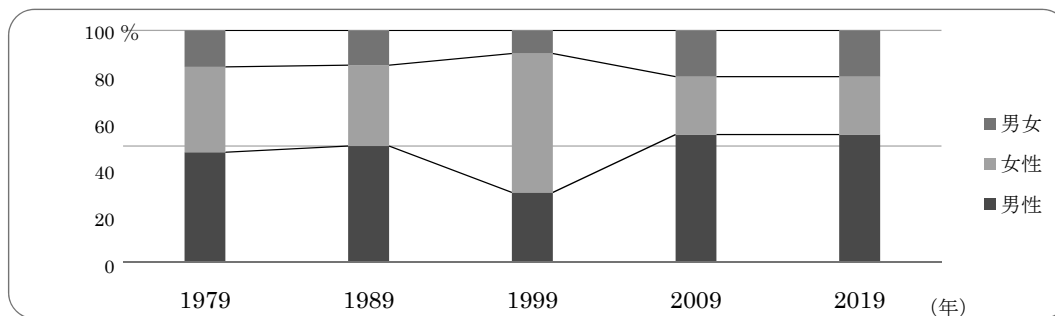


図2 アーティストの性別

1999年を除いて男女比率はあまり変化していない。

3.1.3 簡易分析－アーティストの人種

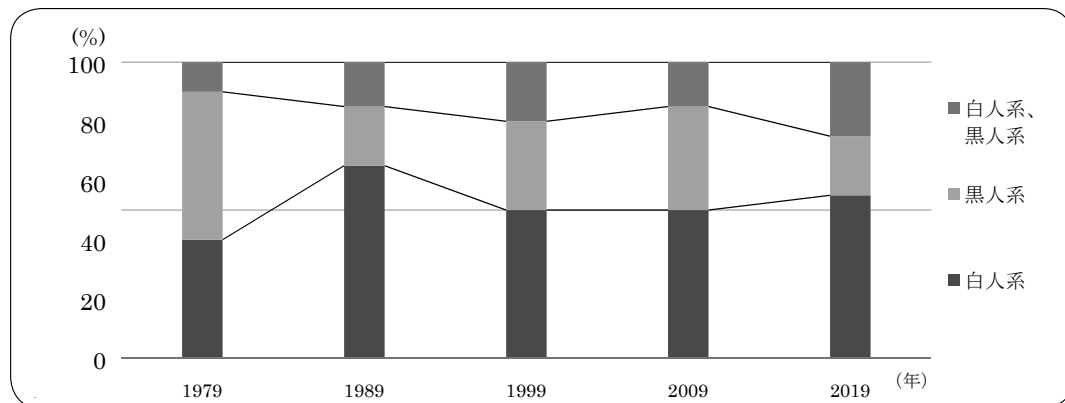


図3 アーティストの人種

白人アーティストの占める割合がどの時代も高い。1979年から1989年にかけて黒人アーティストの割合が大きく減少している。

3.1.4 簡易分析－グループ形態

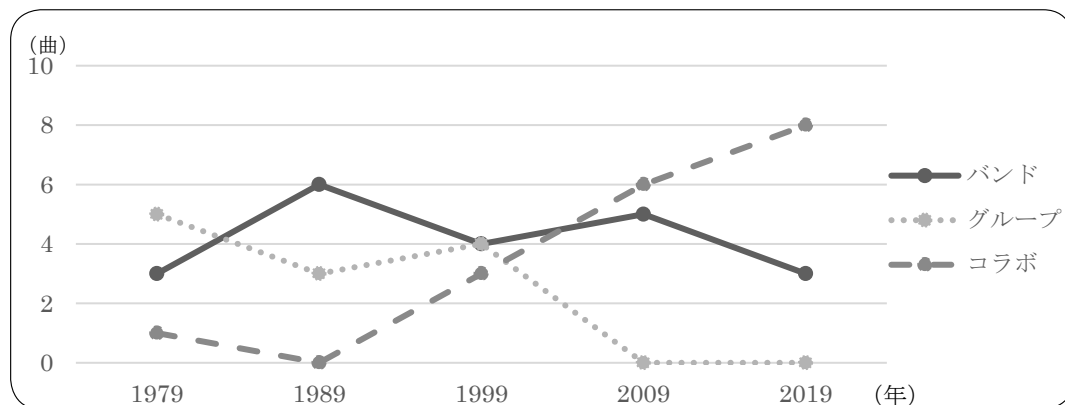


図4 その他

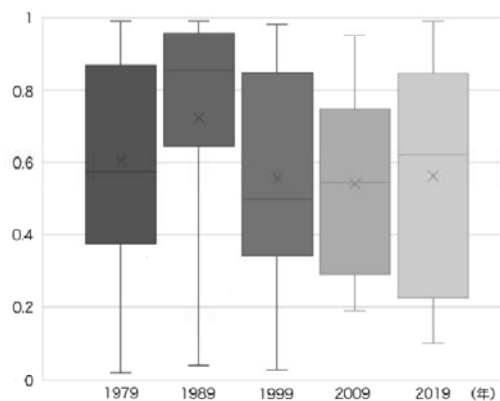
備考：アーティスト名が連名になっている曲をコラボとし、バンドとグループの違いは楽器の有無で判断した。

コラボ曲が著しく増加している一方で、グループによる曲は激減した。

3.2 感情分析

今回使用したAmazon Comprehendでは、歌詞に含まれる感情の全体を1とした時にそれぞれの感情が含まれる割合が算出される。

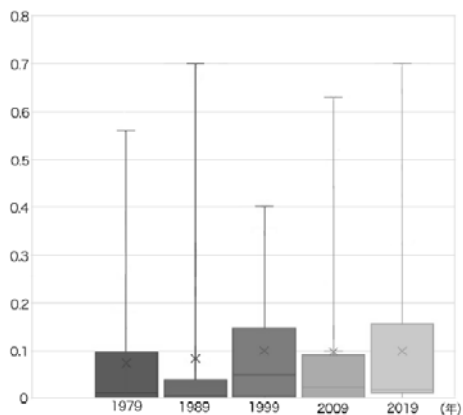
3.2.1 感情分析－肯定的な感情



曲の中で半分以上を占める曲が多数ある。1989年はほかの都市と比較して割合が高い。

図5 肯定的な感情

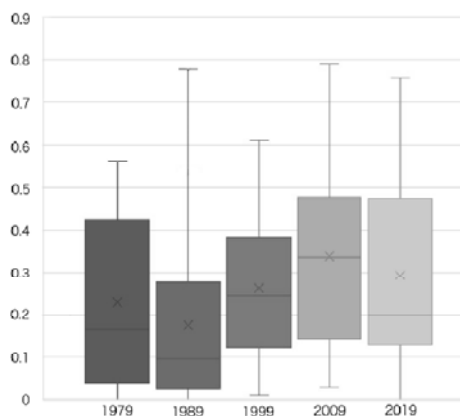
3.2.2 感情分析－否定的な感情



歌詞に含まれる割合は全体的に少ないが、どの年も突出して割合が高い曲がある。

図6 否定的な感情

3.2.3 感情分析－中立的な感情



徐々に増加しており、多くの曲で割合が0.5以下となった。

図7 中立的な感情

3.2.4 感情分析－混在している感情

ほとんどの曲で全く見られない。

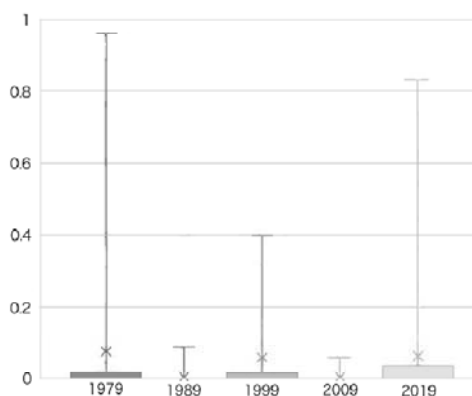


図8 混在している感情

4. 考察

4.1.1 簡易分析－曲のジャンル

ポップスは全ての年代を通して人気な曲が多いが、当時の流行に左右されている。

4.1.2 簡易分析－アーティストの性別

性別による差別は昔から存在しているが、少しずつ解消されている。にもかかわらず1999年を除いて男女比率に大きな差はない。つまり曲の人気にアーティストの性別は関わっていないと言える。

4.1.3 簡易分析－アーティストの人種

1979年から1989年にかけて、黒人アーティストの割合が大きく減少している。これは、麻薬戦争とかかわりがあるのではないかと推測される。当時のロナルド・レーガン大統領が麻薬の取り締まりを強化し、麻薬を好んで使用していたアフリカ系米国人に対して白人よりも重い刑を科した。アフリカ系米国人を大量に投獄を行ったことが、当時の曲の人気にも響いたのではないかと考えられる。

4.1.4 簡易分析－グループ形態

アーティスト同士によるコラボ曲が近年、非常に人気になってきている。情報技術の進歩によって遠い場所に住むアーティスト同士が連絡を取りやすくなったことが原因の一つではないかと考えられる。

4.2.1 感情分析－肯定的な感情

肯定的な感情においては、どの時代でも、1曲の中の歌詞が9割以上肯定的なものが必ず人気になっているため、人々が肯定的な歌詞を支持するのは変化していないといえる。そのため他の感情の割合は少ない傾向にあるが、否定的、中立的な感情は増加傾向にある。政治や経済の状況に関わりなくそういった感情が多く求められるようになったといえる。つ

まり、現在はヒットする曲に含まれる感情が多様になっているのである。

4.3 政治・経済的背景との関わり

すべての時代で共通して言えることは無かったものの、曲のジャンル、アーティストの人種によって、特定の時期に当時の政策とかかわりを持っている。

5. 結論

米国の人々は、どの時代でも歌詞に肯定的な感情を求めているが、近年は否定的、または複雑な感情も求められる傾向にある。人気のある曲を作ったアーティストの性別や人種が当時の米国の政策や情報技術の進歩に影響することもある。今後の課題として、歌詞の意味を一曲ずつ見ることで当時の政治や経済の状況との関わりの有無をより詳しく調べる必要がある。

参考文献

- Charlotte O. Brand ほか編 (2019) “Cultural evolution of emotional expression in 50 years of song lyrics”
- Kathleen Napier , Lior Shamir (2018) “Quantitative Sentiment Analysis of Lyrics in Popular Music”
- Netflix 13TH | FULL FEATURE | Netflix (2016)
< <https://www.youtube.com/watch?v=krfcq5pF8u8&t=1559s> > (2020年9月12日)
- 米国国務省 (2004) 米国の歴史の概要 ―About the USA―アメリカンセンター Japan
< <https://americancenterjapan.com/aboutusa/translations/3373/> > (2020年7月24日)
- 茅根 滋 (2002) 経済的観点から見る日米のヒット曲の歌詞構造とその法則性
(2020年7月24日)